



Atmosphere and Ocean Research Institute
The University of Tokyo

第146回ユネスコ国内委員会 2020/2/21

国連海洋科学の10年 (UN Decade of Ocean Science for Sustainable Development)

道田 豊

東京大学大気海洋研究所

日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会IOC分科会主査



2021 United Nations Decade
2030 of Ocean Science
for Sustainable Development

IOC (Intergovernmental Oceanographic Commission)

政府間海洋学委員会



- 1960年設立. 150か国加盟
- ユネスコのもとで機能的自立性を有する機関
- 国連における海洋の科学, 観測, サービスに関する責任機関

【IOCによる国際協力の成果事例】



IOCの主導により,
それまで太平洋にだけだった津波
早期警報システムが,
インド洋, 北東大西洋及び地中海,
カリブ海にも構築された

2004年12月スマトラ沖地震によるインド洋大津波



海洋及び海洋法に関する決議

(An Omnibus Resolution for Oceans and the Law of the Sea)

1. 既存の構造と資源の範囲において、2021年1月1日から10年間で「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」と宣言することとし、IOCに対して当該10年の実施計画策定を要請(パラ292)
2. IOCに対し、当該10年の準備および実施状況に関して、定期的に加盟国と協議し、加盟国に対して報告することを求める(パラ293)
3. IOCからの情報に基づき、当該10年の実施状況について事務総長から総会に情報提供することを求める(パラ294)
4. UN-Oceansおよびその参加者に対し、当該10年に関してIOCと協力することを求める(パラ295)

Societal outcomes



A Clean Ocean

Sources of pollution are identified, quantified and reduced, and pollutants removed from the Ocean.



A healthy and resilient Ocean

Marine ecosystems are mapped and protected, multiple impacts, including climate change, are measured and reduced, and the provision of Ocean ecosystem services is maintained.



A predicted Ocean

Society has the capacity to understand current and future Ocean conditions, forecast their change and impact on human wellbeing and livelihoods.



A safe Ocean

Human communities are protected from ocean hazards and the safety of operations at sea and on the coast is guaranteed.



A Sustainable Productive Ocean

The provision of food supply and alternative livelihoods are secured.



A transparent and accessible Ocean

All nations, stakeholders and citizens to ocean data and information, tech are capable of making informed decisions.



UN Decade 6つの社会的目標
 ‘Clean’
 ‘Healthy and resilient’
 ‘Predicted’
 ‘Safe’
 ‘Sustainably productive’
 ‘Transparent and accessible’

>>>

海洋政策と密接に関係
 学際的取り組みが必要
 SDG-14のみならず多くのSDGsに
 貢献

Transparent and accessible oceanの道田の仮訳：
 「万人に開かれ誰もが平等に利用できる海」



豊かな海を守る、私たちみんなの挑戦が始まります。

A Clean Ocean

きれいな海

汚染物質の人や生物への影響を調査します。

海に流れ込む汚染物質が、人や生物に及ぼす影響を調査します。さらに、生物が生息していくバランスのとれた海の環境を長持ちさせるための研究も行います。

ゴミ 重金属水質 生活排水 産業排水

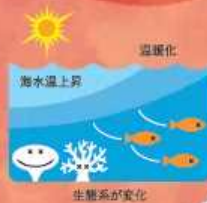


A Healthy and Resilient Ocean

健全で回復力のある海

海洋環境の急変に伴う生態系の真変を調査します。

海の生物は、自然や人による影響を受けても回復する能力があります。しかし最近の急激な環境変化は、生態系に回復不能な影響を与えており、詳しい調査を行います。



A Predicted Ocean

予測できる海

海のさまざまな現象を正確に予測できるようにします。

詳細な海況地形や大気、海洋生物などの多くの観測データと、高度なコンピュータ・シミュレーション技術を用いて、海洋のさまざまな現象を正確に予測できるようにします。また、より良い予測のための海洋調査を行います。

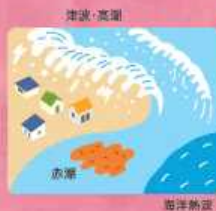


A Safe Ocean

安全な海

さまざまな海洋災害から暮らしを守ります。

津波や高潮・高波のほか、漁業被害を発生させる海洋熱波や赤潮などから暮らしを守るため、新技術を活用し、それらの災害に対する警報システムの開発などを行います。



A Sustainably Harvested and Productive Ocean

持続的に収穫できる生産的な海

いつまでも魚が獲れる豊かな海をめざします。

近年、乱獲や環境変化によって魚介類の漁獲量が減少傾向にあります。こうした状況を改善し、持続的に水産物を確保できる海を目指し研究を進めます。



A Transparent and Accessible Ocean

人々がすべての情報やデータにアクセス可能な開かれた海

世界中の人々が海洋情報を有効活用できるようにします。

海洋調査で得られた情報をオープンにして、誰でも利用できるしくみを構築します。また、発展途上国に対して海洋情報を正しく活用できるように啓発活動も行います。



情報やデータの集約と発信

危険を知らせて安全を守る

豊かな生態系の保全

危険を知らせて安全を守る

様々な海洋調査によるデータ収集

海からの自然災害の軽減

生態系の保全

魚種ごとの生息域の把握

噴火による津波リスクを予測



計画策定グループ

世界から19人の専門家で構成. 日本からは植松光夫・東大名誉教授(前IOC分科会主査)がメンバーに選出. 第1回会合(2018.12), 第2回会合(2020.1)で実行計画について議論中.



Executive planning Group (EPG)

Coordinated by IOC ES



19 Members from **6 UN Regional groups**
Selected by IOC Officers through a broadly disseminated Call for nominations

Representing relevant and varied field of expertise:

- International programmes in ocean science and its numerous applications;
- sustainable development of oceans;
- science-policy interface and;
- capacity development.

1st EPG Meeting
17-19 December 2018, Paris

EPG Main tasks:

- Provide advice on the **form and structure of the Decade** including governance arrangements;
- Support the **drafting of Implementation Plan** for the Decade, to be finalised for UNGA consideration;
- **Engage and consult relevant communities** – advise on the engagement process and actively participate (Decade’s ambassadors).



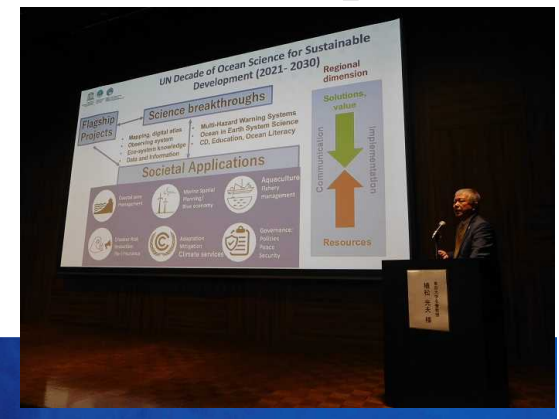
Atmosphere and Ocean Research Institute
The University of Tokyo

国連海洋科学の10年（国内動向）

- 2018.5 第3期海洋基本計画にUN Decade関連記述
- 2018.10 IOC分科会にUN Decade準備WG設置

- 2019.2 東京で第25回国際海洋データ情報交換会議(ICODE-25)
2/18-19にUN Decadeを主題とする科学コンファレンス
MEXTからUN Decadeの準備に関するIOCへの支援表明
- 2019.2 国連大学(東京)でリャビニンIOC事務局長によるUN Decade公開対談
- 2019.7 東京で北太平洋地域ワークショップ開催(IOC/WESTPACとPICESの共催)
18か国160人超の出席
- 2019.9 総合海洋政策本部参与会議に「SDG14に関する検討グループ(SG)」設置
- 2019.9 2019年度日本海洋学会秋季大会(富山)でナイトセッション
- 2019.10 日本ユネスコ国内委員会建議「ユネスコ活動の活性化について」
- 2019.11 日本学術会議シンポジウム「国連の持続可能な海洋科学の10年」

- 2020.1 日本海洋政策学会シンポジウム
- 2020.2 第4回イオン未来の地球フォーラム
- 2020.2 第7回全国海洋教育サミット
- 2020.5 地球惑星連合大会で関係セッション



持続可能な開発のための国連海洋科学の10年(2021-2030) 北太平洋地域計画会合の開催について

Regional Planning Workshop for the North Pacific and Western Pacific Marginal Seas towards the UN Decade of Ocean Science for Sustainable Development

- 2021年から開始する「国連海洋科学の10年」の実施計画策定に向けて、実施期間中に、北太平洋地域において、重点的に推進・活動していくべき事柄について意見交換を実施。
- 北太平洋・西太平洋縁域国の海洋科学関係者、NGO、企業、省庁関係者等 18か国160名以上が参加

基本情報

1. 日 程 令和元年7月31日(水)～8月2日(金)
2. 場 所 イノホール(東京都千代田区)
3. 主 催 ユネスコIOC(WESTPAC:西太平洋地域小委員会)
北太平洋海洋科学機構(PICES)
4. 協 力 海洋研究開発機構(JAMSTEC)
東京大学大気海洋研究所(AORI)

議論のポイント

●「国連海洋科学の10年」の達成目標となっている6つの社会的成果<①きれいな海、②健康的で回復力を持つ海、③予測可能な海、④安全な海、⑤持続的な収穫と生産力のある海、⑥透明性がありアクセス可能な海>に即して、各成果を達成するために今後必要となる事柄を議論。

(主な意見)

- ・ 域内の知識格差の解消、科学的優先事項の順位付けのための国際的イニシアチブやパートナーシップ強化が必要。
- ・ 能力開発、海洋科学技術移転やデータ共有の促進は「10年」成功の鍵となる事項。
- ・ 「10年」の実施期間を担う若手研究者の巻き込みは特に重要

⇒今後、検討結果を第2回グローバルレベルの計画会合で報告し、実施計画の全体的な方向性をとりまとめ。(2020年)



▲開会式(IOC, WESTPAC, バンコク事務所、国内委事務局、内閣府海洋本部、PICESから登壇)



▲6つのWGIに分かれて議論



▲ポスターセッションで日本の海洋教育に関する取組を紹介。



▲プラスチックを使わない会議運営(紙のネームカードと組紐の首かけ)



国連海洋科学の10年の国内政策上の位置づけ

【第三期海洋基本計画(2018.5)】

第1部 海洋政策のあり方 2 海洋に関する施策についての基本的な方針

2-2 海洋の主要施策の基本的な方針 (5) 国際連携・国際協力

「国連持続可能な開発のための海洋科学の10年」(2021～2030)の宣言を踏まえ、当該10年の実行計画策定及びその実施に積極的に関与し、SDGsの達成に向けて我が国として貢献する。」

【日本ユネスコ国内委員会建議(2019.10)】

「ユネスコ活動の活性化について」

2. 「国連海洋科学の10年」に向けた活動の活性化

2021年から始まる「国連海洋科学の10年」に向けて、持続可能な海洋の保護と利活用における科学の重要性について普及を図ること。また、ESDとの相乗効果が得られるような教育関係者との協力も含め、SDGsの達成に幅広く貢献するよう分野を越えた連携を図ること。

今後の動きと課題

2020/2/27-28	Foundations Dialogue for the Ocean Decade
2020/3/18-20	第2回Global Planning Meeting @ Paris
2020/5/24-28	地球惑星科学連合学会(幕張)でDecade セッション
2020/6/2-6	第2回国連海洋会議 @ リスボン
2020/6/29-7/3	第53回IOC執行理事会
2020/秋	国連総会
2021/1/1	持続可能な開発のための国連海洋科学の10年開始

【課題】

- ・海洋科学の10年実施における我が国の取組の可視化, 国際的な場への展開
- ・社会的目標実現のための課題整理
- ・成果のアウトプットの一事例として, 例えば海洋空間計画(Marine Spatial Planning)の検討
- ・共通課題の解決策の提示
 - > 情報共有
 - > 能力開発/海洋技術移転
 - > 海洋リテラシー/海洋教育
 - >



2021 United Nations Decade
2030 of Ocean Science
for Sustainable Development



Atmosphere and Ocean Research Institute
The University of Tokyo

